

5:1 その日、デボラとアビノアムの子バラクはこう歌った。
 5:2 「イスラエルで髪の毛を乱すとき、民が進んで身をささげるとき、主をほめたたえよ。
 5:3 聞け、王たちよ。耳を傾けよ、君主たちよ。私は主に向かって歌う。イスラエルの神、主にほめ歌を歌う。
 5:4 主よ。あなたがセイルを出て、エドムの野を進み行かれたとき、大地は揺れ、天もまた、したたり、雲は水をしたたらせた。
 5:5 山々は主の前に揺れ動いた。シナイもまた、イスラエルの神、主の前に。
 5:6 アナテの子シャムガルるとき、またヤエルのときに、隊商は絶え、旅人はわき道を通った。
 5:7 農民は絶えた。イスラエルに絶えた。私、デボラが立ち、イスラエルに母として立つまでは。
 5:8 新しい神々が選ばれたとき、城門で戦いがあった。イスラエルの四万人のうちに、盾と槍が見られたであろうか。
 5:9 私の心はイスラエルの指導者たちに、民のうちの進んで身をささげる者たちに向かう。主をほめたたえよ。
 5:10 黄かっ色のろばに乗る者、さばきの座に座する者、道を歩く者よ。よく聞け。
 5:11 水汲み場での、水を汲む者たちの声に。そこで彼らは主の正しいみわざと、イスラエルの主の農民の正しいわざを唱えている。そのとき、主の民は城門におりて来た。
 5:12 目ざめよ、目ざめよ。デボラ。目ざめよ、目ざめよ。歌声をあげよ。 起きよ。バラク。とりこを捕えて行け。アビノアムの

子よ。
 5:13 そのとき、生き残った者は貴人のようにおりて来た。主の民は私のために勇士のようにおりて来た。
 5:14 その根がアマレクにある者もエフライムからおりて来た。ベニヤミンはあなたのあとに続いて、あなたの民のうちにいる。指導者たちはマキルからおりて来た。指揮をとる者たちもゼブルンから。
 5:15 イッサカルのつかさたちはデボラとともにいた。イッサカルはバラクと同じく歩兵とともに谷の中を突進した。ルベンの支族の間では、心の定めは大きかった。
 5:16 なぜ、あなたは二つの鞍袋の間にすわって、羊の群れに笛吹くのを聞いているのか。ルベンの支族の間では、心の秘密は大きかった。
 5:17 ギルアデはヨルダン川のかなたに住んでいた。なぜダンは船にとどまったのか。アシェルは海辺にすわり、その波止場のそばに住んでいた。
 5:18 ゼブルンは、いのちをも賭して死ぬ民。野の高い所にいるナフタリも、そうである。

イスラエルは紅海で主がエジプトを打ち、勝利が与えられた直後にも主をほめたたえて歌を歌いました。タンバリンも用いられたので、それは音楽であったことがわかります。
 私たちも主への感謝を、またそのみわざゆえの賛美を主にささげるべきです。それは日常の中、または聖日礼拝の中です。単に歌を歌うだけでなく、現実にかきた主のすばらしいわざを思いながら賛美するなら、それはすばらしく力あるものとなるでしょう。
 賛美は主をあがめるので、聖霊あふかれ、すばらしい真理に導かれます。ここでも同じです。「髪の毛を乱す」とは頭髪を切らないことで、そ

れは髪に請願を立てた状態であり、そのために献身している様子を表します。献身があるから勝利（またはその約束と信仰）があり、それによって「主をほめたたえる」ことに現実感があるのです。

「主をほめたたえよ」とあり、また「デボラ。目ざめよ。」とあります。勝利のためにはリーダーだけではなく、主が立てたリーダーによって勝利できるという信仰も必要です。それは主への信頼、そして賛美から湧いてくるのです。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？

